

私たちの住む川根本町は、とても緑が多く、自然豊かな町だと思います。

しかし本などを読んで、世界では森林の減少がすごく問題になっているのを知りました。

このため、学習のテーマを

地球規模で考えると森林は急激に減少しています。森を守るため、自分たちから動きだすことが大切です。



「森林が減少している原因と、守るためにすべきことは何か」と決め、世界では、日本では、川根本町では、森林の現状はどうなっているのか？また、この緑豊かな森林を守っていくためには何をどうしてゆけば良いのか学びました。

調べた結果、森林には大きく分けて3つの役割があることが分かりました。

1つめは水を蓄える機能があらるといことです。

降った雨を地中に蓄え、少しづつ少しずつ下流へ流していく貯水機能。

このおかげで、水不足にならずに済みます。

2つめは、災害を防ぐといことです。

災害にも色々ありますが、1つめで述べたように、森林には貯水機能があり、そのおかげで、一時に大水が出るのがなく、土砂崩れや洪水を未然に防いでくれます。

3つめは、二酸化炭素を吸収し、酸素を作り出すことです。

森林は、二酸化炭素を吸収し、そして、動物が生きていくのに一番重要

な酸素を作り出してくれます。

また、二酸化炭素を吸収することで、地球温暖化を防ぐ役割も果たしています。

森林は地球上になくはならない存在だと言うことが分かります。

しかし、現在世界では、森林の急激な減少が問題となつてきています。

森林が減少している原因はともたくさんありますが、主なものに、人間による商業伐採があります。

商業伐採では、目的の木だけではなく、材木を置くためのスペースを確保したくて、また木を切るのだそうです。

そういったことも必要なのかも知れませんが、これによって、広い範囲の森林が減少しているのは事実です。

また、焼き畑も原因となっています。森林を焼き払って畑をつくるということです。

大規模な山火事の原因にもなっており、深刻な問題です。

これらのように、森林は主に人間が使うことで減少が続いています。

解決のためには、やはり木を切ったら新しい木を植えることが一番大切です。

森林を利用しながら育てる姿勢が必要だと思います。

調査の結果、川根本町は94%以上が森林で、その状態は昔からほとんど変わらず保たれています。

日本全体でも森林の減少は見られませんでしたが。

しかし、驚いたことに、世界では森林の切りすぎが問題になつていますが、日本では「木を切れない」ことが問題になっているようです。

木を切る人が少なく、切った木の使い道がないためです。

今後、森を守っていくためには、将来に向けて持続可能な森づくりについて考え、自分たちから動くことが最も大切なことなんだと感じました。

残したい…守りたい…伝えたい…

山や木や川の悲痛な叫び。生徒たちの学習成果からは、そんな自然からの声が聞こえてきます。この町に暮らす中学生たちが

子どもたちの「環境」への思い

どのように学び、考え、そしてこれからどうしていききたいのか。

中学生の学習成果を一部ご紹介します。

僕は、川根本町におけるゴミの問題とリサイクルについて調べました。

川根本町では、昨年4月から、島田市の田代環境プラザにゴミを集めて搬入しています。

ゴミの分別など、すごく楽に

なりましたが、なぜ新しい施設が必要になったのか、新しい施設によってゴミはどう変わるのか、環境問題との関係はどうなのかなどを調べてみました。

田代環境プラザは、島田市、川根町、川根本町で組織する組

合が建設した島田市にある新しいゴミ処理施設です。

延べ床面積は9、100平方メートル、総事業費が92億3、600万円で建設されました。

24時間稼働し、1日最大で148トンものゴミ処理が可能です。

これまでのゴミ処理施設は、ゴミを燃やすことで処理し、残りの灰などは処分場に埋め立てるといった方式を採っていました。

ゴミをリサイクルする取り組みがありません。環境を考える上で、ゴミ問題は避けては通れない問題です。

でも、この新しい施設は、集めたゴミを高温で溶かして処理するため、ダイオキシンも発生しないし、処理過程で出たメタルやスラグなどは再び資源として利用されます。(メタルは機械の重りとして。スラグは砂の代わりとしてアスファルトの原料に。)

田代環境プラザに持ち込まれたゴミは、施設内のゴミを溜める場所(ゴミ

ミピット)に集められ、クレールで溶融炉へと運ばれます。

溶融炉の中のゴミは、酸素を抜いて最大1000度という高温で完全に溶かされます。

これにより、埋め立てる灰の量はとても少なくて済み、ダイオキシンなど有害なガスも発生しません。

そして、木の枝や食品の生ゴミなどは別行程で、一次・二次の破砕機を通して細かくされ、1カ月発酵させて堆肥としてリサイクルされています。

現在、全国ではどここの処分場もゴミが一杯になってしまっていて、今も増え続けるゴミの処理に困っています。

このため田代環境プラザのように、ゴミを燃やすのではなく、溶かして処理してしまう方が、処分場も必要ないし、リサイクルも促進されるため環境にやさしいと言えます。

また、ダイオキシンも発生しにくいこともあり、様々な面で

環境を考えた施設だということが分かりました。

この他にも、アルミ缶や紙のリサイクルに取り組んでいる会社を見学してきました。

ここでは、回収したアルミ缶をプレス機という機械にかけ、ブロック状になったアルミ缶の固まりを溶かして、もう一度アルミを作るという作業を行っています。

また、紙をまとめて水で溶かし、もう一度紙を作ることも行っています。

このように、今あちこちでリサイクルが行われ、環境を考える取り組みが進められています。

これから自分も、学習した成果を活かして、もっと環境について考え、リサイクルなどできることから始めていきたいと思っています。



2年 山田将大さん